

会議録（１）

| | |
|----------|---|
| 会議の名称 | 第２回飯能市地域公共交通対策協議会 |
| 開催日時 | 平成２４年１１月２７日（火） 開会 １０時００分 閉会 １２時００分 |
| 開催場所 | 飯能市役所 本庁舎別館２階 会議室２，３ |
| 会長氏名 | 飯能市長 沢辺 滯彦 |
| 座長氏名 | 吉田 樹 |
| 出席委員 | 沢辺 滯彦、吉田 樹、丸山 和廣、関根 康洋（代理：嶋寄 大介）、堀米 康史、鶴岡 洋、清水 潤次、浅見 浩士、馬場 才次郎、真野 綾子、高山 和征、新井 貞市、中川 淳、倉掛 泰明、浅見 淳二、田中 雅夫 |
| 欠席委員 | 鈴木 利雄、村松 守夫、松原 緑 |
| 説明者の職氏名 | 飯能市市民生活部長 上 良二 飯能市市民生活部交通政策担当主幹 西島 正樹 飯能市市民生活部交通政策担当主査 佐藤 好則 |
| 傍聴者の数 | ６名 |
| 会議次第 | 別紙の通り |
| 配布資料 | 別紙の通り |
| 事務局職員職氏名 | 飯能市市民生活部長 上 良二 飯能市市民生活部交通政策担当主幹 西島 正樹 飯能市市民生活部交通政策担当主査 佐藤 好則 |

会議録（２）

議事録の概要（経過）・決定事項

（１）協議会の趣旨と今後の進め方について（第１回協議会の振り返り）

当協議会での協議事項として、①乗合バスの維持確保について、②交通不便地域（交通空白地）についての２点を説明し、内容は了解された。上記２点の課題に対する本市の基本方針、方向性を（仮）飯能市公共交通基本計画としてまとめることが了承された。

（２）路線バス利用状況について

前回提出の路線バス利用状況調査のデータにつき、ポイントとして整理したものを説明し、現状の本市における路線ごとの利用状況、問題点について各委員にて共有することを得た。

（３）取組事例紹介

座長から既存の取り組みにおける課題とその解決に向かう観点と体制について、事例を交えての説明及び本市の課題と協議会の目指すところの道筋について解説され、関連する議論により各委員の理解が深まった。

（４）バス利用者アンケートについて

今後実施するバス利用者アンケートについて、その設問と意図するところを解説し、了解を得た。また、当日以降、設問内容等についての修正要望等を１２月４日を期限として受付けることで了解を得た。さらに現在進行中の郵送による市民アンケートについても順調な進捗であることを報告した。

（５）その他

次回協議会においてはアンケート結果による詳細な課題分析の提出が指示された。また、予定されている地区ごとの懇談会については事務局にて調整が必要とされ、了解された。

会議録（3）

| 発 言 者 | 発 言 内 容 |
|-------|---|
| 事務局長 | <p><開会></p> <p>定刻でございますので、第2回飯能市地域公共交通対策協議会を開催させていただきます。</p> <p>まず、ご報告をさせていただきます。関東運輸局埼玉運輸支局の高山委員、埼玉県交通政策課の浅見委員が少々遅れるという報告をいただいております。また、自治会連合会の鈴木委員、公募委員の村松委員、飯能市タクシー協議会の松原委員から欠席の連絡を頂戴しているところでございます。</p> <p>また、西武バスの関根委員の代理といたしまして、嶋寄委員が出席していただいております。よろしくお願いたします。また、イーグルバス様から、委員を矢島委員から堀米委員に、国際興業様からも、委員を鈴木委員から丸山委員に変更させていただきたいという届け出が出ておりますので、ご報告をさせていただきます。お手元に変更した委員名簿を配布させていただきましたので、ご確認をいただきたいと思います。</p> <p>なお、この協議会につきましては、広く市民に周知をしていく必要があるということで、公開するという事になっております。傍聴者が入っておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>それでは、次第に沿いまして協議会を進めさせていただきます。はじめに、この協議会の会長であります沢辺飯能市長からご挨拶をお願いいたします。よろしくお願いたします。</p> |
| 市長 | <p>皆さん、おはようございます。飯能市地域公共交通対策協議会の開催にあたりまして、ひとことご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は大変お忙しい中をこうしてお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。去る10月9日に第1回協議会を開催させていただき、はじめの会議でございましたが、大変長い時間にわたりまして意見交換などを行っていただきまして、本当にありがとうございました。</p> <p>その際、説明をさせていただいておりますけれども、本市を運行しておりますバスにつきましては大変広いエリア、また長い距離を運行しております。このようなことから利用者の皆さんにとっては、非常に大事な交通手段で、これをいかに確保していくかということが難しい課題であるということがあるわけでございます。そうしたことにつきまして、皆さま方にもいろいろと前向きなご意見等をいただいて、この維持確保に力を合わせていこうというようなことを、前の会議ではそういう形で進めていただいたと思っておりますのでござ</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>います。</p> <p>またさらに、本日のこの会議の趣旨、進め方といったことにつきましては、座長の吉田先生からまたいろいろとお話をいただくわけですが、特に全国的な事例の中から飯能市がどういう形のものであるかということ、委員の皆さんにとりましても、共通の認識として知っていただくことが極めて大事であると思います。本日はそうしたお話もいただきながら会議を進めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いを申し上げる次第でございます。</p> <p>本日の会議によりまして、公共交通についてのご理解を深めていただき、さらにその先どうしていくかということにつきまして、またじっくりとよいご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げる次第でございます。</p> <p>また、今日、この会議にずっと出る予定でいたのですが、記者会見の日程が変更になりまして、この後に記者会見があるということになってしまいましたので、途中で中座をさせていただきますけれども、なにとぞご了解をいただきたいと思います。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いをいたします。</p> |
| 事務局長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、本協議会の座長であります吉田先生をお願いいたします。</p> |
| 座長 | <p><議事></p> <p>それでは、皆さまのご協力の下に進めてまいりたいと思っております。よろしくお願いをいたします。</p> <p>今日の議事は4つあります。今、市長さんからお話があった通りに、10月9日に初回の協議会がスタートしました。いろいろとデータの報告ですとか、あるいはこの協議会の狙いといったようなことを報告していただきまして、3時間ほどにわたる活発な議論を皆さんからいただいたところです。</p> <p>今日の協議会では、第1回目で、かなり消化不良となっていたところもありましたので、その振り返りをしながら、この協議会で皆さんと共に何を考えていくかというところを共有していくというところが、ひとつの大きな目的です。議事(1)から(3)ということになります。「(4)アンケートについて」という項ですが、こちら委員の皆さまからさまざまなご意見を頂戴していただき、かなり修正された部分というものがございまして、その部分につきましても併せてご報告させていただくというところで、(1)から(3)までが終わったら(4)というところに入ってまいりたいと思っております。</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>それでは、「(1) 協議会の趣旨と今後の進め方」、そして「(2) 路線バス利用状況について」というところを一括して報告させていただきたいと思います。</p> <p>今日は皆さまのお手元には極めて薄い資料が手元にあるかと思えます。前回はかなり厚い資料でもって矢継ぎ早やに説明をしていきましたが、今回は皆さんと共有していくところ、それから前回の振り返りというところが中心となっていくしますので、スライドを使いまして説明させていただきたいと思っております。基本的にはお手元にある資料とスライドは一緒ですから、見やすい方をご覧くださいながらお話を聞いていただければと思います。では「(1) 趣旨と進め方について」事務局から説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>それでは協議会の趣旨について、第1回協議会の振り返りということで、説明させていただきます。</p> <p>(資料1 「協議会の趣旨について～第1回協議会の振り返り～」に基づき説明した。)</p> |
| 座長 | <p>ありがとうございました。あとで、一括して質疑をお受けしたいと思います。最後のページのところに、2つの事柄が出ていました。皆さん7ページをご覧ください。この協議会では、今走っている路線バス、これは国際興業だけに限らず、西武バス、イーグルバスも含めたことですけれども、今走っている乗り合いバスというものをどうやって守っていくのか、逆に言うと、どうやってもっと使いこなせるようにしていくのかというところが、1つ目の議論です。これが1番目ですね。</p> <p>2番目が、交通空白地域です。ただ今、路線バスがある、あるいは鉄道の駅が近くにある、というところだったら、公共交通を使ってお出かけができるけれども、そうではない地域というのが飯能市には沢山ある。そのところでどういう形で公共交通、移動手段を提供していけばいいのかというところが、飯能市の場合、まだルールが定まっていない。そのところについて考えていくことの必要性が大きな2番として提案されています。その方向性を求めるのがこの会議の使命であるというところをまとめていただいたと思います。後ほど議論したいと思います。</p> <p>では続いて、前回出していただいた「路線バスの利用実態」です。前回、多くの資料を矢継ぎ早やにお話いただきましたので、少しご理解がいただけなかった部分もあろうかと思えますので、重要な点だけを改めてお話をさせていただきたいと思います。では、お願いいたします。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| <p>日本交通計画協会</p> | <p>今、ご紹介がありましたように、前回のポイントだけ説明したいと思います。</p> <p>今日ご説明するのは3つございます。1つは基本的な利用というのと、周辺における日常の移動ということ、さらにサービスの現状と交通計画で注目すべき地域についてということ。先ほど交通空白地域であるとか、既存路線バスについて「つくる、守る、育てる」というようなことがありましたけれど、それが今、実際どのような形で運行されているのかということも含めて、さらにどういところをこれから注目すべきところなのか、というところを説明したいと思います。</p> <p>(資料2 「飯能市における地域公共交通の現状把握(レビュー)～路線バスの利用状況～」に基づき説明した。)</p> |
| <p>座長</p> | <p>どうもありがとうございました。今、前回のレビューを説明いただきました。</p> <p>(1)については、前回の振り返り、そこの中でこの協議会で何を議論していくのかというところを、最後に整理いただいています。(2)については、前回取り上げましたけれども、現在の公共交通の使われ方、特に名栗方面からはメインとなる移動手段としてバスが使われている人が相対的に多いこと、あるいは、先ほど出てきた地図のところでも、比較的名栗本線というものは本数も多いこと、その一方で、交通空白になっているような地域が存在していることをご指摘いただいたかと思います。</p> <p>では皆さんの方から、どちらからでも結構です。ご意見とかご質問とかありましたら、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。あるいは、ここの説明を詳しくしてほしいという声でも結構です。</p> |
| <p>委員</p> | <p>今、説明をいただいて、確かに今の分析の通りだというふうに私も思っております。そこで実際の地域から考えますと、名栗は本線的な機能があるので利用者が多い。あと、中沢のバス路線と、私のところの地元は間野黒指線のところですが、そちらの方はやはり補助的といいますか、そういうふうな考えでいくとなっています。ダイヤの数と乗降客の数が絡んでくるのではないかと地元としては思っております。ですから中沢線も間野黒指線も利用者数は少ないのですが、期待するところはかなり高いところがあります。特に思うのは、高校生とかが朝使う場合に、朝のダイヤがないものですから、家族が送って行ってしまふ。そうなりますと、帰りもやはり迎えに行くというふうな形で、通勤と通学、特に高校生以上といった人が乗る朝とか夜の便の乗降客が非常に少ないというような現状が、たぶん調査で出ていると思うんです。その辺のところを考えないと、バス路線を維持していくこと、育てていくことが難しいのではないかと思います。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>この第1回目の会議と今日までの間に、私なりにちょっといろいろなことで町の中をよく見たり聞いたりしております。今、腰痛で整形外科の病院に通っているんですが、市内の病院は、患者を往復、迎えたり送ったりしているんですね。そこで医療機関を経由するようなバス路線があれば、医療機関は自前の車を走らせないで、乗降客の調整が効けば、上手い形で公共機関を利用する方が増えるのではないかと。その一面だけですが、そのようなことも感じました。</p> <p>ダイヤとそれからコースを真剣に考えますと、乗降客の増というのが図れるのではないかと。これは期待ですが、というふうに思っております。今の検討の中では、ダイヤの数を増やさないと乗降客が増えないという面があるのではないかと、というところを私は指摘したいと思います。</p> |
| 座長 | <p>ありがとうございました。今、お話いただいたのは、ダイヤの数、それから、そのルート、通る道というところで、たとえば今、通学できる時間帯にバスがなかったり、あるいは行きたい医者の近くにバスが通ってなかったりする。そういうようなことを包括的に考えていかないと、実際にバスの利用促進というところが図れないのではないかと、というところの重要なご指摘だと思いますが、この辺りをどういうふうに考えていくかというところ、事務局の方で腹案があればお知らせいただければと思います。</p> |
| 事務局 | <p>同じようにダイヤ本数、それからコースの見直し、そのようなことで利用増加につながるのではないかと、というようなことは内部では話をしているところですが、実際のところ、本当にそうなるのかというのがわからないのが現状であります。これまで報告していますのは利用状況の報告ですが、これらの地区の、たとえば高校生の数の調査など、将来的な推移を出して検討していかなければいけないと考えているところでございます。これからの検討課題ということで、我々も捕らえておるところでございますし、またこのご意見を参考にしたいと考えております。</p> |
| 座長 | <p>はい、ありがとうございました。おそらくこのルートとダイヤをどう考えていくか、きわめて大事な問題です。ただやはり、従来おそらく飯能市とか、あるいは関東圏でやられてきてるものというのは、たぶん「その便を増やしてほしい」とか「ルートを変えてほしい」というのは全部事業者に要望が上がっていて、「事業者が全部対応してくれるものだ」というふうにならざるを得ないところだと思います。</p> <p>ところが今回の国際興業の問題にもわかる通りに、やっぱり事業者単独でやるには限界がある。だからこそ、どこまでのことを行政とか、あるいは地域住</p> |

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>民の皆さんだとか、あるいは沿線にあるようなそういう医療機関とか商業ってところと連携して、「今、足りないところをどうやって補っていくか」というような発想はしていてもいいはずですよ。だから、そういうところも視野に入れていく必要はあるだろうと個人的には認識しています。</p> <p>たとえば、他地区の例でいくと、ある大きな病院が1つある。その病院の外來の受付時間帯に行けるエリアってどこなんだろう。バスを使っていけるエリア。「それが外れていけば、バスが走っていてもその病院に行けないよ。」という話になって、「少し問題だ。」という話になり、議論ができてくる。あるいは、駅周辺に着けば、「高校に通える」ということにも等しくなってきます。そうすると飯能駅周辺に、ある一定の時間帯に本数があるような路線というものがあるのか。今は本数ですけども、「実際の生活の場面」というところに落とし込んでみて、そういう図を作ってみると、やっぱりその辺の課題というのが見通しやすくなってくると思います。</p> <p>ただお金がかかることも時々あるので、そういう議論をするときに。そうすると、その確保というものをいったい誰が責任を負ってやっていくのかというところは、それも含めて議論していかなければいけないだろうとは認識しています。</p> <p>重要なご指摘でした。そのほか、いかがでしょうか。</p> <p>私は3つに分けて考えた方がいいと思います。1つは、通勤通学の利用者。これは朝晩ですね。それから2つ目は、今出ています高齢者。日中の利用ですね。それからもう1つは、土日の観光目的。3つに分けて、それぞれ利用目的が違うと思うので、対策もそれぞれ違うと思うのです。</p> <p>たとえば、通勤通学の利用者で、まあ実現できるかどうかかわからないということであれば、たとえば名栗とか原市場とかに何箇所か大きな拠点を設けて、そこに大きな駐車場をつくる、あるいは駐輪場をつくる。たとえば名栗とか原市場からかなり車で飯能まで来て、どこか1箇所に大きな駐車場とか駐輪場をつくって、そこからバスに乗りやすいような環境をつくる。あとは料金とかの問題もありますけれども少し安くして、「車で行くよりも、まあトントンぐらいで行けるかな」という状況をつくれれば、乗客が増えるのではないかと。実現できるかどうかわかりませんが、そんなことを最近考えています。</p> <p>それからもう1つはそれに伴って、電車と同じように、名栗から特急バスを出す。朝晩ですね。途中止まらないで行き、時間短縮を図る。こうなれば多少増えるのではないかと考えています。</p> <p>それから高齢者の対策です。日中、いろいろなバスが走っていると思うんですけども、一例でいうと福祉センターに行くバスがあります。直接福祉セン</p> |
|----|--|

| | |
|-----------|---|
| <p>座長</p> | <p>ターへ行くのですが、「福祉センターまで来て、そこから病院に歩いていく」という人もいらっしゃるのですね。ですから、福祉センターまで行くのではなくて、先ほどの「コースを考える」に関連すると思うのですがけれども、福祉センターだけではなくて、どこかの病院や、あるいはスーパーなどで乗降できるような形をとればいいのではないかと。そのほかにもいろいろなものが走っていると思うので、そういう広い連携が必要かなと思います。</p> <p>それから観光目的の方については、いろいろ先ほどからご報告がありますようにいろいろな対策を今考えておられると思うので、それをどんどん推し進めていけばよろしいかと思います。最近、そんなことを考えています。</p> <p>ありがとうございました。今のご意見も先ほどのご意見と重なってくる部分があると思います。要するに通勤通学、昼間の目的、通院とか買い物、それから休日の交通というところで、ライフスタイルの場面に応じてサービスを提供していくことが必要でしょうということでは共通していると思います。</p> <p>その中で、特急便というアイデアだとか、あるいは拠点をつくるというアイデアだとか、あるいは昼間の場合には目的地の近くに寄せられるのであれば停留所を寄せてもいいのではないかとか、「いろいろな工夫ができますね」という話がありました。実はその辺のところは比較的単純にできるところもあります。どういうところがやれるのか、あるいは、やれないとすればなぜやれないのか。やれない理由って考えるのは簡単なのですが、やれる理由を探した方が楽しいですね。だから、そういうところを考えていくということは非常に大事であると思っています。</p> <p>実はこの間、日曜日に、東大で地域交通に関するセミナーというのがありました。これは我々の研究者グループとあるNPO法人が共催という形でやって、交通事業者の方とか行政の方だとか、市民の方も交えて丸1日議論をしたのです。南房総市役所の方がたまたま来ていて、南房総市の場合には富浦とかが合併してできた市なんだそうです。そこは、市内に道の駅がなぜか8箇所ある。合併したすべての町に道の駅があるんです。その中で、「道の駅にとにかく来れば、どの方向のバスも使えるようにした」と言うのです。「とりあえず道の駅に来てくれれば、とにかく病院に行けるバスと、市役所に行けるバスと、どこどこに行けるバスというのは確保しているという、わかりやすいルールのネットワーク体系に変えた」という話をしていました。ただ、当然ながらその整備にはお金がかかってくるところもありますし、南房総市の場合にはいわゆる民間の事業者さんではなくて、市が直接運行しているバスも多いですから、比較的そういう体制にはなりやすかった、という話もされておられました。「拠点」というところをどう考えるのかということ、バスの活性化を考える中</p> |
|-----------|---|

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>でやっぱり重要なポイントだと思っています。通学の目的、昼間の目的、休日の目的っていうところにうまく分けて議論をしていくっていうことも必要なのかな、という気もします。ありがとうございました。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p> <p>今、「観光目的の移動」ということで、ふと思ったんです。この間、土曜日に、名栗のカヌー工房のイベントに関わったのですが、友人が来るはずだったのですが遅れて、「さわらびの湯まではバスで来られたけど、カヌー工房まで歩いて行けなくて帰った」って言うのです。それですごく悲しくなりました。</p> <p>「本当に足がなくなる」という状況というのは、いつどんな時にでも、年齢がいくつとかでも関係なく起こり得ます。たとえば消防団は各地域にあります。そういうエリア毎に、ここに、こういうときに緊急に必要な、「ここからここまで行きたい人がどうしても必要なんだ」という人に、近所の誰かが、ちょっと車を出してくれるようになってくれたら、本当に観光のための名栗というエリアが、すごく活性化すると思うのです。その目的地まですら夜になると行けなくなるというのは、バスが通っていても結局意味がないという感じになります。最終のバス停のところから、「それからどうするか」というところを誰か、地域の人たちで分担してサポートする。女性消防団員も募集しているけれど全然集まらないわけですが、女性は運転するのは結構、今普通にします。そういうふうに関連させて、回せたらすごくいいのではないかなと思いました。</p> |
| 座長 | <p>ありがとうございます。バスで終点まで行くと、その終点から先がまだ距離があるときに、そこまでの移動手段というものが無い。今、消防団というような形の話もされていましたが、地域の住民の人たちが補助的にやる。もちろん、その受け手をどうするかとか考えないといけないですけども。そういうやり方もあると思うし、タクシーだとしてもしかしたら使えるかもしれないけれども、近くに車庫がなければ呼び出すにも時間がかかって大変だ。だから、タクシーが待っていてくれるという仕組みもつくれるかもしれない。</p> <p>でも重要な指摘です。このバスの終点のところまで行っても、先までまだある。そのときにどの交通手段を使っているかがわからない。あるとすれば誰かに迎えに来てもらうしか今は選択肢がない。あるいは、自分が歩いていくしか選択肢がないので、バスの先の手段ということも一緒に考えることが大事なのではないかというのが、ご意見だと思います。それって大事な視点です。先程の「観光」というところでお話しされていた「休日交通」というところもリ</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>ンクしてくるところで、必ずしもバスの終点が目的地とは限らないわけですから、そこから先の移動手段と連続して考えていかないと目的地に行けないので、そもそもバスを使っただけないというところに翻ってくるわけです。そこは連続的に考えていく必要があります。今のような視点というのは、絶対に織り交ぜていきたいですね。これはいいご指摘でした。ありがとうございます。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p> <p>事業者の方にちょっとお聞きしたいと思っています。</p> <p>利用者増を図る場合、その人に「乗ってもらえる」ためには、バスの料金が電車と比べますと高いという壁があります。たとえばバスにまず乗っていただいてお金を払っていただく。そのあとに、市の方が補助金を出すというような形になるのですが、その一部を個人の方に還付する補助金のような形で出すことはできますか。今、パスモやスイカなどの電子カードで整理できるわけですが、これをたとえば市民が持っていて、1カ月なら1カ月、3カ月なら3カ月経ったときに、「いくら、どこからどこまで乗りました」というのが出せるものなんでしょうか。出せた場合には、「その乗った金額の3分の1なり、2分の1なりを市が補助してあげます」という動機づけをすると、今まで車だったり、いろいろな手段でバスを使わなかったというのが、バスの方に回帰するひとつの動機になるのではないかと思っていたので、その辺の技術的なことをわかりましたら教えていただきたい。</p> |
| 委員 | |
| 座長 | <p>バスの運賃というところをもう少し軽減できないのか、という疑問の中で、要するに「パスモやスイカを上手く活用したような仕組みというものをつくれないのか」というお話でした。事業者の皆さん、お答えできる方いらっしゃいますか。答えられる範囲でいいと思います。お願いします。</p> |
| 委員 | <p>パスモもスイカも履歴は出せます。バスの履歴も電車の履歴も出ます。ただ、電車に乗る人もいれば、今はパスモでジュースも買えます。たとえば今のような提案の場合は、飯能地区のバス専用1枚、パスモかスイカを持たないと、補助金を出す側の計算が面倒になると思われます。更にそれをまた電車で使えないと、却って不便になるかも知れません。</p> |
| 座長 | <p>技術的に今、パスモという形で全部関東は共通化してしまっていますから、たとえば飯能市でこういう仕組みをつくらうとすると、カスタマイズするのがとても難しいというところがあります。履歴は出てくるんです。カードを持つ</p> |

ている人が、何時何分何月何日にどこからどこまでいくら払ってくれたかというのは、出そうと思えば全部出せるんですけども、そのシステムを使って割引制度をするというところは、飯能市が独自でやろうとしたら、飯能市独自のカードをつくるか、そういうことをしなければいけない。

一方で運賃というところのお話が出てきました。健康保険とはちょっと基本構造が違いますけれども、それを考えていただけるといいと思います。たとえば健康保険の場合、医療費がありますね。その中の2割とか3割とか自己負担金です。その部分が運賃だと思ってください。保険料というのは我々がいろいろお支払している税金から出ているわけですから、要するにその部分の税金が保険料として残りの自己負担分以外のところをバスの費用が補填されている。それが税金なわけです。だから今、飯能市が負担している運行費の負担、税金というのは、皆さんからいただいている運賃収入では賄いきれない部分、つまり自己負担以外の部分を今の運行費補助の部分でカバーしているという状態なのです。だから逆に言うと、運賃を低廉化させていく、下げていくというためには、運賃を半額にして倍のお客さんが乗ってくればペイできますけれど、倍のお客さんが乗ってくれなければ、その分行政側が負担をしていかないと、事業者としては立ち行くことができないというところが、どうしてもあります。

私も今、青森県八戸市で市内のバス運賃最大740円を300円に下げる、ということをやっています。その中で、今、八戸市の持ち出しは9,500万円です。でもお客さんは16%増えています。だから、本来だったら1億3千何百万円出さなきゃいけないところが9,500万円になったので、それだけ皆さん乗っていただいている話もあるのです。でも市は9,500万円出し続けなければいけないところもあるのです、どういうふうにしていこうかというところがあります。ただ八戸市の場合、9,500万円出せる特殊事情があります。八戸市って市営バスという公営事業者があります。その公営事業者が経費削減している部分が、ここ数年で億単位であったので、それを付け替えればいざという発想でやれてしまう。ところが、飯能市の場合にはそういうような発想が残念ながらできないので、いきなり運賃を下げたとしても、その分、市の財政負担が出てくる可能性が大きいかもしれません。

昨日長野県須坂市というところへ行ってきたのですが、あそこは昼間と朝夕で運賃が違います。通勤通学で、朝夕はいっぱい人が乗ります。だから普通の運賃です。昼間は下がります。でも運賃表示は一緒なので、昼間は乗り降りすると、帰りの割引券が貰えます。行き200円払ったら帰りはタダなんです。行き400円払ったら、帰りは200円引きだから200円になります。そういう形で昼の運賃を下げて、昼間の通院とか買い物というものをしやすく

| | |
|----|--|
| | <p>しようというところで、全体のお客さんを底上げしました。その分はお客さんが増えてくれたので、それほど市の持ち出しは増えなかったという例もあります。ただ、いろんな実証実験の調査を重ねて、今のような形になっているのでやれているものなのです。</p> <p>運賃収入というのは事業者さんの運営の根幹にはなるので、やるときには注意をしていかなければいけない。「でも使いやすくしたいよね」というところの思いとどこで折り合わせていくのか、というところは必要な議論です。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。それでは、私から、今の続きも含めて「事例紹介と課題提起」を説明させていただきたいと思います。「資料3」で準備されていますので、そちらをご覧くださいだと思います。</p> <p>(資料3 「事例紹介と課題提起」に基づき説明された。)</p> <p>以上、私がお話したことに関して、何かご質問等ありますでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>アジェンダってなんですか？</p> |
| 座長 | <p>アジェンダとは自分たちの方針ですとか、それからここでやるべき課題という意味です。</p> <p>基本的には、先ほど事務局から説明のあった2つの柱、今ある路線をどうやって守って行って、どうやって皆さんに愛される、存在感のあるものにしていくか。「存在感」という言葉を私は使いたいのです。飯能の人が「やっぱりこの路線使えるね」と言ってもらえるような、存在感のあるようなバス路線にしていきたい。そしてその上で、今バス路線が行き届いていない、公共交通がなくて車がないとお出かけができないような地域の皆さんに、どうやってサポートしていけるのかということも併せて考えていきたい。この2本柱でやっていきたいと思います。</p> <p>今日はいろんな事例も含めて矢継ぎ早やにお話ししてきましたけれども、次回からはさまざまな調査の結果が出てきます。そうすると、「飯能のミスマッチって何なの？」というところが明確になってきますから、そこを土台としてまた議論が深められればというふうに思っています。</p> |
| 委員 | <p>ご説明をいただき、今後の地域交通ということで、たいへん勉強をさせていただきました。それで、いまひとつ見えない部分がございます。端的に申し上げまして、「これ以上、公共交通の空白の部分はこの協議会でつくらない」といったことで行動を起こされるかと思いますが、先ほど、委員さんからもご発言がございました。隠れた部分で申し上げますと、名栗本線ということでお話があったわけですが、中沢線、間野黒指線、この先どうなるのかというのが一</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>番の不安感がある部分かと思います。</p> <p>今日、国際興業さんで用意していただきましたカラー刷りの資料、その中でこの名栗本線が濃い色で書かれております。ちょうどその真ん中、上赤沢という部分がございます。今日は飯能市の方から交通調査で資料を提出させていただきました。この3ページの中に、各路線の乗降者数等が書いてあります。そこで、湯の沢というのが名栗本線の一番奥なわけですが、現実的には中沢線、間野黒指線、それに並ぶ乗降者数しかない部分が、この赤沢から奥の地域です。今後この協議会の動きによりまして、この上赤沢から湯の沢の地点まで交通空白地帯になる可能性が非常に大かかと、そういうように率直に感じておる次第であります。</p> <p>そこで、今まで議論の中に入っておりませんが、この交通空白地帯、精明、双柳方面を含めまして、今の既存の路線バスを最大限に利用して、この空白地帯をこれ以上つくらないといったことを、この協議会の中で具体的に進めさせていただくことが一番であると、そのように率直に感じております。感想だけでたいへん申し訳ありませんが、以上です。</p> |
| 座長 | <p>今のご意見について、何か事務局の方ではありますか。</p> |
| 事務局長 | <p>基本的に地域の中で今のご発言のようなことがないような形で我々と一緒に本当の努力をしていただいております。人員が少ないということは事実であります。しかしながら、ここで国際興業さんとわれわれで調整をさせていただきまして、湯の沢までの間をなんとか維持するという方向で進めておりますので、そのようなことがないように、全力を挙げて取り組んでおりますので、ご了解をいただきたいと思っております。これはなんとしても、やはり本線を、きちんと維持するということが、この地域の一番の方向付けではなかろうかと思っております。事務局としても一番の課題として捉えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> |
| 座長 | <p>ありがとうございました。本線ということで、湯の沢のところまでを含めて考えていくところですけども、基本的には、今走っているようなネットワークはしっかりと守っていくということが前提となってくるだろうと思ひます。</p> <p>ここからは私のまったくの私見なのであれですけど、実は私が飯能市さんから国際興業の撤退問題に関してご相談をお受けしたときに、まず真っ先に考えたのは雇用の話でした。つまり、今、飯能の営業所に勤めてらっしゃる方がたくさんおられる。その方々が、国際興業さんが撤退することによって、ほか</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>の営業所に移るようになれば引っ越しされてしまうかもしれません。あるいは職を失ってしまう方もいらっしゃるかもしれない。三十数人の乗務員の皆さんプラス、それから営業部隊の方もいらっしゃる、50人以上の方がいらっしゃいます。その方々が、飯能の足の担い手として働き続けていただけるような環境がなんとかつけれないか、というのが実は私の最初の思いだったのです。</p> <p>だから当然ながら、その方々がしっかりと活躍して、誇りを持ってお仕事をしていただけるような環境にしていくのが当然大前提です。飯能のここの本線、名栗本線というところは一番力を入れて守っていかなければいけない路線である。それは大前提として考えていきたいというふうに思っています。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。では、アンケートの話に移っていきましょうか。前回お示したアンケートの話からちょっと変わっているところがあるというところでしたので、事務局から説明をお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>では、利用者アンケートについて説明いたします。資料4をご覧ください。(資料4 「バス利用者アンケートについて」に基づき説明した。)</p> |
| 座長 | <p>ありがとうございました。今話があった通りに、市民向けのアンケート調査については現在、実施中ですね。どのぐらい今、集まっていますか。</p> |
| 事務局 | <p>だいたいところで1000通ぐらいです。</p> |
| 座長 | <p>封筒の数で1000ぐらい集まってきているというところですから、順調な滑り出しだというふうに思います。その一方で、路線バスの利用者調査票については、一般のお客さんと観光客向けというところで分けて聞いていこうというような話に変わったということです。</p> <p>特にお気づきの点等があれば、12月4日までに事務局にお知らせいただきたいというところですが、今パッと見て気になった点があれば1～2点お受けできるかと思いますが、いかがでしょうか。特に今の段階ではよろしいですか。そうしましたらまたこれを持ち帰って、「いざやってみたらちょっと答えにくいんじゃないか」というようなところがありましたら、事務局にお寄せいただければと思います。</p> <p>それでは今日の予定されていた次第の案件は以上ということになりますが、「その他」というところで事務局から用意されている事項はございますか。</p> |
| 事務局 | <p>事務局から報告をさせていただきます。まず1点、先ほど出ました「市民向けアンケート」につきまして、これは11月初旬から発送をいたしまして、た</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>だいま回収中でございます。結果につきましては、次回の協議会にはご報告できるかと思っておりますので、そのときに内容のご報告をさせていただきます。</p> <p>もう1点、前回の協議会でお話ししました地区への懇談会の関係です。現在、ふくしの森懇談会を実施し、また市民向けのアンケートもやっております。そのようなことから、その結果が出ましたら、その時点で調整して地域に出向いていきたいと、方針を変えましたのでご報告させていただきます。事務局からは以上です。</p> |
| 座長 | <p>はい、ありがとうございました。あと参加いただいている皆さんの方から何かございますか。</p> |
| 委員 | <p>先ほどお手元に、私どもの会社からご用意させていただきました、エコツアーのチラシについてです。これはエコツーリズム推進室様からご提供いただいています。また、先ほど市の方からも若干説明がありました、弊社が現在行っているエコスタンプラリーについてです。この2点に関して説明させていただきますと思います。</p> <p>座長からのご説明にもありましたように、この協議会で求められている三位一体の中で、私ども国際興業バスとして、もちろん西武バスさん、イーグルバスさんともども、事業者としてできるだけのことをしていきたいというふうに考えております。</p> <p>まずスタンプラリーですが、先ほどご説明がありましたように、飯能市さんと観光協会さんのご協力を得て始めております。こちらは、2年前に1度実施しております。去年はいろいろあり、できなかったのですが、今年はなんとか実施できることになりました。イベント期間は、11月17日から3月31日までとなっております。地域の店舗の皆さまには割引等ご協力いただいております。また、飯能地域の人だけではなく、できるだけ東京やさいたま市からもこのスタンプラリーに参加していただけるように呼びかけていきたいと思っております。期間は3月末までありますので、先日南高麗で開催されたお散歩マーケットでも、私ども社員が250枚ほど配って参りました。お散歩マーケットに来ていただいた人にまた来ていただくということが、このチラシをまくことによって可能と考えております。</p> <p>また、先日私ども埼玉東営業所で、国際興業バス祭りを開催いたしました。そこでは、たとえばバスの中に乗っていただいて、乗ったまま洗車機に入ってもらい、どういうふうにバスが洗車機の中で綺麗になるかというのを体験していただき、子どもたちにも喜んでいただきました。また、私どものグループの岩手県交通から遠野物語の絵を描いたラッピングバスを持って来たりしまし</p> |

たが、非常に人気がありました。あとは工場の中での車輛整備の仕方。車を釣り上げて、どういう構造になっているのか、どういうふうに修理するのかという部分を子どもたちを中心に説明しました。あと屋台でいろいろお店を出していただいて、山田町と大槌町など、東北の方々の応援もありまして、ショップを開いていただきました。だいたい来客は1400名でした。去年1800名だったので若干減ったのですが、他地区のイベントもあったらしく減ったらしいのですが、それでも1400名も来ていただいて、お土産も買っていただきました。その中に毎年、名栗地区の方に店舗を開いていただいて、名栗饅頭や、うどんを出していただきました。今回はかなり売れ行きがよく、商品がなくなるくらいまで売っていただきました。そこでも弊社エコスタンプラリーのチラシを300枚ぐらい配布しました。

バス祭りは、バスを好きな人がけっこう集まっていますので、そういう人たちはこのスタンプラリーに来ていただける可能性は高いと思っています。今、バスの中にチラシを吊るしてありますが、私どもの東京北部や埼玉南部のバスエリアにも、窓上ポスター等でできるだけ告知して、飯能市だけではなく、たくさんの方々に飯能市に来ていただくということをしていきたいと思っています。

あと、四半期ごとに、飯能市のエコツーリズム推進室さんがツアーを企画してくださっています。ツアーのチラシを私共も協力させて戴き、先ほど申したエリアを走る850台のバスに載せています。

やはりバス広告の効果は、かなりあると思いますので、チラシを見ていただいて、できるだけ飯能エリアに来ていただく。こういう形で飯能エリアに来ていただけることが、私どものバスに乗っていただけることにも繋がりますので非常に助かっており、お互いに協力をし合って活動をしていきたいと考えております。

そのほかにもいろいろあるのですが、代表例として、私どもが活動させていただいている2点につき説明させていただきました。以上です。

委員

スタンプラリー関連のことですけれども、開催がオフシーズンですよ。これから先、オンシーズンにやる、そんな考えはあるのですか。

やはりオンシーズンにやる意味もあると思いますし、逆にオフシーズンに来ていただく目的というのもあります。

できればオンシーズンにも実施してもらいたいです。オンシーズンには宣伝をしなくても来るから、効果が大きいと思います。オフシーズンに実施する意味はわかりますけれども、せっかく我々としても何かを提供しようと考えているわけですから、オンシーズンにも来てほしいのです。やっぱりオフシーズン

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>だちょっとお客さんは少ないだろうなと思います。</p> <p>そうですね。場合によって回数を増やしたり、期間は短くなるかもしれませんが、オンオフ両方やるなど、いろいろ手はあると思いますので、飯能市さんとも相談して活動を考えていきたいと思っています。</p> |
| 座長 | <p>ありがとうございました。やはり地元密着でこういうのを進めることですから、地元の思いと、それから国際興業さんのネットワークを活かしてやっていくことは、大事だと思います。</p> <p>埼玉の川口に今住んでいる、国際興業さんのバスを使って毎日通勤している教え子とたまたま昨日東京で会ったのですが、変な疑問を出してきました。「最近、国際興業さんのバスにはなぜか飯能の広告ばかりある。」と言っていました。私もこの間浦和で乗ったのです。やっぱり飯能の広告はけっこう目立ちます。だから、運転席の後ろのところに吊り下げていたりとかしているのがあったりしますから、いろいろとさせていただいているんだなあというところは感じています。こういうのをうまく活かしていきながらやっていけるといいなあと個人的には思いました。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>私は、間野黒指線沿線に住んでいます。11月25日の日曜日に、国際興業のバスを貸切で、15人から20人の方が私どものお散歩マーケットの間野黒指のバス停のところに来られたんです。何をされているのかと思いましたが、撮影なんです。その方たちのすごく興味のあるところというのが、地元が思っているのとはまったく違うのです。それを見て、「あ、こういうことで貸切までして来ていただけるのか」という思いがしました。お散歩マーケットをやっているときの私どもの考えは、そういうこととはまったく違うことを考えていました。それでも魅力があるからと毎年来ていただいています。いろいろな面で考えますと、魅力があるものがあつたときに、それを資源として、考えられないか。私どもみたいに限界集落みたいなどころですと外の方が乗っていただかない限り増員するのは不可能のようなところがあります。地域には、天然記念物のタブの木の巨木とか、いろいろなものがあるのですが、それらをそういうマニアのような人が使っていただけるということになれば非常にありがたい。</p> <p>実はこの神社のところで撮影しているのですが、これが「となりのトトロ」の、子どもが神社の前で傘を被ってのシーンがありますね。あそこのところの夜ライトが谷をグーッと照らしながら来る、あのシーンがピタッと合うところ</p> |

| | |
|-------------|--|
| | <p>なのです。宮崎駿さんはあそこに来て考えていたのかなと思うぐらいにピタッとしたところなので、そういうことも目的で来ているのかとか、また違う感じでわざわざ来られているのか、国際興業さんの方で何かそういうふうな情報がありましたら地元にも教えていただくと資源化できるのではないかと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> |
| <p>委員</p> | <p>お散歩マーケットは私も家族で参加させて戴いたのですが、物凄く理想的な活動だと思ひます。やはりお店さんだけが協力するのではなく、それぞれの民家の方々が温かいおもてなしで、無料でお茶出していたり、お金をとつても100円のおダンゴを出したり、利益を取るためじゃなくて、みんなに来ていただくためにやっている。</p> <p>お散歩マーケットはお散歩マーケットでとても良かったのですが、それ以外に先ほどのお話にあつたように、やはり地元の方が気づいていない素晴らしい天然資源というのがいくつかあると思ひます。先ほどのトトロの木に似ている木など、私どももまだ気が付いていなかった部分がたくさんありますので、どこかの機会に告知できれば、協力していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p> |
| <p>座長</p> | <p>それでは、よろしいでしょうか。それでは本日の第2回の協議会の方を閉会させていただきますと思ひます。事務局に最後お返しいたします。</p> |
| <p>事務局長</p> | <p>長時間にわたりましてありがとうございます。1回目3時間以上ということで市長からも挨拶がありましたけれども、我々といたしましても今日の会議で、きちつとした方向が見えてきたのではないかと、本当にいい方向に向かつていけるというような感触を得たところでございます。</p> <p>時間がありませんので手短にお話しますが、今、この国際興業さんの問題を契機にですね、地域が本当に動いていただいております。地域だけではなくて、事業者も。国際興業さんも八重洲の本社から名栗の夜の7時の会議に毎回出ていただいておりますし、西武鉄道さんからも、スマイルアンドスマイル部の部長が出ていただく等、この地域の活性化に対しまして全力で皆さんに取り組んでいただいているという感じを受けております。「どうせやってもダメなんだな」というような感じから、「何かをやると何かが生まれる」という感触を得ているところでございます。</p> <p>イベントを開催し、豊島区に西武線沿線サミットの縁がございまして、チラシを持ってぜひ親子で来てくださいということで呼びかけたところ、参加者は、150人ぐらいが限界かなということで我々も思ひましたが、一週間</p> |

で二百数十人の申し込みがあるような状況でありました。本市には相当の魅力があるということを実感しております。その中で皆さんが一緒になってこの問題の解決のために動いていただいているということも、本当に感じているところでございます。

今後もいろいろな活発な意見を頂戴することをお願いいたしまして、本日の協議会を閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。